

令和7年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 内閣官房長官賞受賞

## 協働を紡ぐまちづくり中間支援活動

千葉県銚子市 一般財団法人銚子円卓会議

地域資源を活用した市民主体のまちづくり

—銚子円卓会議の挑戦と実践

千葉県銚子市は、人口約5万2000人、利根川河口に位置する港町として発展してきた。江戸期には水運の拠点として栄え、醤油産業や漁業を基幹とする地域経済が形成され、ヤマサ醤油、ヒゲタ醤油は全国的なブランドとして定着し、水産業は長く地域の活力源となっている。農業面においても、温暖な海洋性気候とミネラル豊富な土壤を活かし、春キャベツやダイコン、トウモロコシ、銚子メロンなど高品質な作物の生産地として知られる。また、屏風ヶ浦や犬吠埼灯台などの景観資源は観光面においても高い評価を受けており、歴史・産業・自然・



DELKUI 中学生への講話の様子

食文化といった多様な切り口で、地域内外に魅力を発信するポテンシャルを持つ。

しかし近年は、人口減少・高齢化・財政難といった課題が複合的に進行し、従来の

地域活力を維持することが困難になりつつある。産業の担い手不足や公共サービスの縮小は、地域の再構築に対する新たな戦略を必要とする状況を示している。

このような背景のもと「銚子円卓会議」では、制度の隙間を柔軟に埋めながら、市民の自発的な活動と地域資源の活用を促進するプラットフォームとして機能することを目指し、千葉県事業を契機にまちづくりの多様な主体が連携する協議体として約10年間の活動実績を重ねてきた。そして2024年6月、地域の企業・個人からの寄付によりコミュニティ財團化を実現。これにより、活動の持続可能性と信頼性を高め、行政依存型ではない市民協働型まちづくりの基盤が強化された。



うとするプロジェクト。

プロジェクトがはじまった2013年から19団体に対して累計280万円超の寄付金を媒介している。



OSUSOWAKE 2025年木村ゼミ生

鉢子円卓会議の取り組みは、大きく以下の3事業を柱として展開し、それぞれが相互補完的に連携しながら人と地域社会のレジリエンスを育もうとしている。

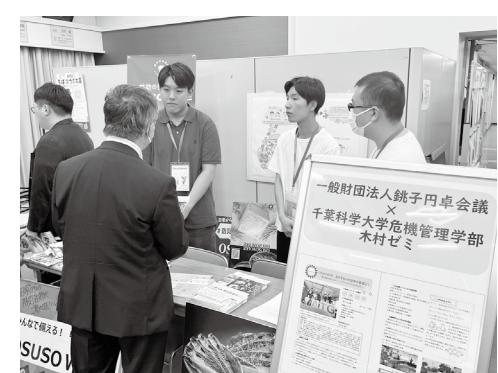
また、関連企画として活動団体の枠を超えて、多世代、多業種、多国籍など多様な立場の市民が集い、地域課題について対話する「まちづくりワークショップ」を継続的に開催してきたことで、発見した課題について安心して相談できる場、機能が育つつつある。

### 地域課題と人を寄付でつなぐ 「この指とまれ!」プロジェクト

地域課題に向き合い、「この指とまれ!」と自ら手をあげ、仲間たちと共に、解決に向けた活動に取り組んでいる方々を、寄付を媒介にして応援する人の輪を広げていこ

### 地域資源の循環を生む「共助のローリンググーストック OSUSOWAKE」

パートナー地域の災害時には支援物資として、災害が起こらなければ参加者の手元へ備蓄品が届く、日常からの防災活動が、



OSUSOWAKE 学生との広報活動の様子(2)



OSUSOWAKE 学生との広報活動の様子(1)

鉢子発、日本初の「共助のローリンググーストック OSUSOWAKE」である。お米、鰯の文化干し、煎餅や木の葉パン、醤油セットなど地元企業の自慢の逸品を備

蓄品として活用し、石川県珠洲市など全国4地域とのパートナー連携を構築。さらに地元の千葉科学大学など教育機関との協働による防災教育、地域資源活用の実践として高く評価され、令和3年度には千葉県知事賞（ちばコラボ大賞）を受賞している。昨年度、第4期では、備蓄品がはじめて石川県珠洲市への支援品となつた。現在は、取組みの社会実装を目指し「OSUSOWAKEを世界の言葉に」を合言葉として、活動を進めている。

## 次世代と地域を結ぶ「DELKUI(出る杭)

次世代と地域との良質な関係を育もうとするローカルキャリア教育支援事業が、「DELKUI」である。

多様な産業で日本有数の規模を誇る銚子市は、日本の出る杭かもしれない、と捉え直し、ならば、出る杭となつて成長する次世代を育成することは得意な風土ではないか、との仮説をたて、「出る杭を伸ばす風土を、文化に」をスローガンに長期的な視点で進めている。

中高生など次世代を対象に、地元企業人との対話の機会の創出、学生・おとなインターングループの推進、プロボノ活動の受け入れ、地域課題への関与などを通じて主体

的に地域の多様な大人と関わる機会を創出しながら、多様なキャリア形成を丁寧に支援している。

今年度からは教育委員会の後援のもと小・中学校のキャリア教育に活用されることを想定する「地域人財データベース」の構築を高校生と共に取り組む事業に着手する。

3事業は一見それぞれ異なる領域を担っている、「市民参加の促進」「地域資源の活用」「人材の育成」という共通の方向性において連携している。「この指とまれ！」プロジェクトは、地域課題に取り組む市民活動の可視化と支援を通じて、地域内に参加と共感の基盤を築いている。そのような土壌のも

と、OSUSOWAKEは地域産品を用いた循環型備蓄の仕組みによって、共助と防災教育、地域外との連携を展開する事業として位置づけられる。さらに、DELKUIでは次世代がこれらの活動や広く地域産業、地域社会と触れ、関わることで、地域課題を見つけ、解決に向けて主体的に考え、行動する人材の育成を担つてている。これらの事業は段階的かつ有機的に連関しながら、市民協働の仕組みと持続的なまちづくりの基盤を形成している。

銚子円卓会議の活動は、地方都市におけるまちづくりの一つの実践例として、着実な広がりを見せていると考へる。市民が自ら地域の課題に向き合い、多様な輪わりを深めながら育っていく仕組みが少しづつ形になりつつあり、その中で生まれた成果や経験は、次の活動への足がかりとなつていている。

行政や制度に頼るだけでなく、市民の創意や協働によって地域を育てていこうとする姿勢は、レジリエントな人が育つ、レジリエントな地域社会の重要な基盤である。私たちも、まだ道半ばであることを自覚しながらも、この取り組みに手応えと希望を見出し、今後も一歩ずつ歩みを続けていきたい。

（一般財団法人銚子円卓会議



この指とまれ！ 寄付贈呈式の様子